85

現代パンフレット
第三一〇輯

新國政をリードする力

（總選擧と二・二六異變の後を承けて!!）

岸田菊伴著
川太郎序

新東京社版

特244
780

0003174000

1

0003174-000

特244－780

新国政をリードする力

岸田菊伴・著

新東京社

昭和１１

ABA

この著作物は、著作権者不明のため、著作権
第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２
けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

特244
780

帝國圖書館藏

新國政をリードする力

岸田菊伴著

新東京社版

昭一三・三・二 帝國圖書館藏

擧國一致協力內閣とは何ぞや

……卷頭序にかへて……

衆議院議員　立川太郎

友人岸田菊伴君「新國政をリードする力」と題せるパンフレットの稿を了へ、予に求むるに卷頭序を以てす、稿は總選擧終了の直後に其大半を了り、二月廿六日の皇軍空前の不祥事に前後し、その結語に於て氏が今を去る六年前、昭和七年七月に刊行したる現代パンフレット「明治大帝を偲び奉る」の中に揭げたる一項を、原文のまゝ轉載再錄して居る。

惟ふに今回の騷擾に對する批評を遠慮し、事件の原因とその善後措置についての意見をも語るを愼しみつゝ、六年前の舊稿を再錄して十年一日の如く渝らざる著者の信念を聲明し、君民一致國家の重きに任することは、一君萬民の皇室中心主義に外なき事を强調したのであらう。

この一事、予の心から共鳴し、贊同するところにして、予が立憲政友會より公認されて衆議院議

員候補に立ち、親しく選擧區民諸君に見えてその所懷を語つた時にも、政友會の掲げたる政綱政策については多くをいはず、專ら皇國の世界萬國に比類なき國體の精華を顯彰し、皇道精神の崇高なるを仰いで、擧國皆兵、一君萬民の大義を說いたのであつた。

此意見を聽いて、その貴き淸き一票を予に投じ、四たび帝國議會に予を送り呉れられたる選擧區の同志諸君も、亦全く同感共鳴せられたるによると信ずるが故に、予が今回の選擧に當選の榮冠をかち得たる歡びは、蓋し予一人の榮譽の爲に非ず、誓つて平生の所信を述べ、勇往邁進、一身をさゝげて忠誠をつくし、同志諸君の報國の至誠をも暢達する機會を與へられたからである。

今や帝都の秩序全く恢復し、萬民安堵を得たる所以のものも、一にかゝつて上陛下の御稜威によることゝ、皇國々體の精華が全國民によく體得せられたる結果なるを思ひ、今更の如く大日本帝國に生れたる幸福を感謝し、昭和の聖代に生き得る歡喜に躍躍するものである。

岡田內閣恐懼して闕下に伏奏し、閣僚全部の辭表を呈して骸骨を乞ひ奉る、寔に當然の措置ではあるが、責任政治は曾に現職を拜辭して止むものではない、深く自ら省みてその過ちを悔ひ、野に下りても猶其責任の重きを痛感し、出所進退を謹みて奉公の至誠を渴さねばならぬ。

人動もすれば後繼內閣の擧國一致でなければならぬ事を說き、强力內閣たらざるべからずといふ而かも擧國一致の如何なるものなるかに及ばず、强力の意義那邊にあるかをいはず。

著者「新國政をリードする力」を說いて擧國一致は數に非ず、强力は曾て軍部が指導し來りたる時の如く毫も私心を交へざるにありと說く、寔に當を得たる至言なりといふべし。

今次の異變に當りても、香椎中將が馬を下りて一兵士を諭したりといふが如き、眞に私心をすて〻一兵陛下の一兵をも重んじたる忠誠の表現にあらずして何ぞや、帝都の治安漸やくにして維持され、秩序の回復こゝに全く成りしも私心なき將軍の力に寄る事極めて甚大也。

思うてこゝに至れば、百の聲明、千の宣言、如何に美辭麗句を並べたりとて、一片の私心を含むものは何の力かあらん、議席の多寡又何するものぞ、眞實國家を思ひ、陛下と國民との爲に萬難を排して奉仕するの熱意と至誠あらば、一人猶天下の重きに任じ得べし。

重ねていふ、私心なきものは極めて强し、至誠と熱意に優る力なし、予不敏なりと雖も至誠報國の熱意に至つては斷じて人後に落ちざる牢固たる信念をもつ、著者の求めに應じ、卷頭序にかへて此所信を語り、敢て全日本同憂のの士に訴ふ。（昭和一一・三・一稿）

目次

一、擧國一致の聲明をどうする？……政局の前途に一抹の暗雲!!……（一）
二、果して國民總意の反映か？……明朝選擧に解け難い謎の一二!!……（六）
三、無產黨の進出は何を語る？……叛逆的に投じたかインテリ層!!……（一一）
四、頭冠りで現狀維持はできない……昭和會閣僚の勇退に期待するか？……（一六）
五、中立の得票九十三萬を見よ……眞の擧國一致は政治形體によらぬ……（二一）
六、擧國一致內閣の首班は誰？……字垣か、近衛か、仰々誰か？……（二六）
七、强力內閣は多數を意味せず……社會指導機の中心問題に從ひ動く……（三一）
八、來るべき新內閣への要望……社會立法の制定實施を急げ!!……（三六）
九、眞に擧國一致要求の時……今後の政局をリードする力は何？……（三九）
一〇、今にして思ふ明治大帝の御時……一君萬民主義の皇道政治を仰ぐ……（四二）
○謹慎無窮、紀元節の御下賜、歲末御下賜のみでない、三菱財團の五十萬圓……（四五）

新國政をリードする力

岸田菊伴

一、擧國一致の聲明をどうする？

政局の前途に一抹の暗雲！

政戰は了つた、與黨民政黨二〇五の議席をかち得て第一黨となり、野黨政友會一七四に蹴落されて昨日の榮華の夢全く破れ、昭和、國同の支持績くかぎり、岡田內閣はまづ安泰の如く見えるが、それにしても無產黨の驚異的進出、社大だけでも優に昭和、國同を尻目にかけて、悠々十八名を當選せしめ、これに地方無產等を加ふるに於ては交涉團體の列に加はることも今一ト息といふところまで漕ぎつけた事は、既成政黨にとつても、岡田內閣としても、眞に無氣味な現象と見なければならぬ、此事實に目を閉ぢて與黨大勝などと祝酒に醉うてゐるようでは、岡田內閣の前途も岌々乎と

して危いかなである。

況んや與黨民政黨にしたところで、二〇五人の代議士を送つてゐる新陣容に於て、僅かに二〇人の議席しか有し得ない昭和會に、遞信、鐵道、農林の三大臣を獲られたまゝで、ジッと辛抱して居れといふ注文が無理である事は、識者を待たずして判り切つた問題ではないか。

然るに內田鐵相は岡田首相に進言して、「現內閣は衆議院を解散して總選擧を正しく行ひ、全國民の信任を問うた結果が、政府支持派の多數となつたのであるから、飽くまで政策の敢行に邁進し斷じて動くべきでない」と、强硬に現狀維持說を唱へ、首相も同意したと傳へて居る。

それと前後して岡田首相は談話の形式で全國民に聲明し、「國民の總意を尊重して憲政確立に邁進すべし」と誓つて居る。

そこへ又國民同盟の安達總裁は、岡田首相を官邸に訪ね「眞の擧國一致を具現すべし」と進言し三個條の覺え書まで提出して、岡田首相の深甚なる考慮を促がしたといふが、其覺え書第二項には次のような內容が盛込んであつたと新聞紙は報道して居る。

政府にして眞に擧國一致を求むるの誠意あらば特別議會終了後國內各勢力の協力を求むる爲政治上の重大考慮をなすべし。

而して官邸を辭去した安達氏は、往訪の新聞記者に語りて「政治上の重大なる考慮」といふのは各派の協力を得たる上はその代表者を入閣させる爲に內閣の改造を斷行すべしとの意味を含むのであるといつてゐる。

然るに、この進言を聽き、如上の覺え書を受取つた岡田首相は「內閣の改造なんていふものは實際問題としては出來るものでない、改造ができない、政友會も動かぬとすると、擧國一致の主旨に副はないではないかと攻め寄せられると困る」と語つて居る。

岡田さんの困る困らぬは問題ぢやない、今度の總選擧に臨んで、貴き淸き一票を投じた時の國民の氣持は、岡田內閣に對しても、與黨民政黨や昭和會に對してもその聲明せられた擧國一致といふ立前から、そこに若干の期待をかけて投票したのであり選擧したのではなかつたか？

然るに、選擧がすむと、さうした聲明を忘れたかのやうに「予の政友會に對する考へは選擧後も少しも變らない、元來擧國一致の建前で政友會を野黨とはこつちでは見てゐない積りなのだ」といふやうな氣持で、このまゝ頬冠りで押してゆかうなどとは、國民大衆の夢にも想はなかつたところ

であるから、假令岡田首相が困らうとも、安達國同總裁の進言は實現さるべきものであらう。

一體今の政治家は、政府當局にしても政黨首腦部にしても、國家と國民大衆の爲に考へるよりも先づ自分自身の爲に考へるように見えてならない、私はこの際社會大衆黨の黨首安部磯雄氏が今度の總選擧で、選擧公報紙上から選擧區民に呼びかけてゐた一語を引照して見よう。

安部氏は冒頭に「トルストイの言葉」と題してかういつてゐる。

アスタポーポの小さな驛で、危篤に陷つた世界的文豪トルストイが、自分の病狀を案じて馳せ集まつた近親の人達を見廻はしていつた臨終の言葉は「何故お前たちは私のことばかり案じるのだ、この世の中には苦しんでゐる何百萬何千萬の人たちがゐるではないか」といふのであつた。

安部氏はこのトルストイの心を心として、貧しき人々の爲に立たざるを得なかつたといつて居られる。「私は自分だけが靜かな老後の生活をもつことを、假令事情は許しても私の氣持が許さないのでありません」といつて居られる、私は此一語を絶對に、條件なしに信ずる者である、惟ふに安部氏に投じた東京府第二區の二萬三百七十四人は私と同じ心であつたと思ふ、私は此安部氏の氣持を岡田首相にもつて欲しい政黨の人々にも體得して欲しいと思ふ。

安部氏が第二區に於ける當選者五人の中の第一位を占め、優に二〇三七四といふ第五位長野高一氏の得票數の二倍以上を獲得し、剩つさへ、中島彌團次氏も、鳩山一郎氏も本郷とか小石川とか、所謂其人々々の地盤といふもので、偏よつた多數を獲得したのに引きかへて、安部氏の得票は小石川の五五一七、本郷の五四二二、下谷の五三五二、神田の四〇八三といふやうに普遍的であり平均してゐるところにその特異性を見なければならぬ。

一國の總理大臣は全日本の國民大衆を見とほして、普ねく其政治の惠澤に浴し得るやうな治績をあげなくてはならぬ、或る階級に偏より幸ひしたり、或る一局部の人に利益を與へたりするやうでは決して善政を布くものとはいへない、天下萬人に歎ばれなくてはならない、如何なる部分の人からも怨嗟の聲を放たれてはならない、そこに擧國一致の實があがり、國を擧げて太平を謳歌するの明朗にして正しき政治が行はれるのである。

それには全然私心をすてなくてはならぬ。行きがゝりにとらへられたり、感情に左右されたり肚黑き人々に牽制されてはだめである、殊に權勢を恃んだり、自己陶醉にかゝつたりしては、とてもトルストイの足許にもよれない。

二、果して國民總意の反映か？

明朗選擧に解け難い謎の一二！

肅正選擧の結果が民政黨二〇五昭和會二〇及び準與黨國民同盟一五となつてゐるから、現內閣の施政方針、政策政綱が國民多數の支持を得た證明であるから、政府は外部からの策動を排し、現狀を維持して堂々所信の實現に邁進すべしとは內田鐵相の豪語である。

之を內務省警保局で調査した黨派別得票數の累計によつて見ても、投票總數一千百二十四萬三千七百六十八票、有効投票一千百十一萬七千六百三十四票を各黨派別にすると、

民政	四、四二〇、七四二	昭和	五三、七〇六	國同	四二、八二七
政友	四、一九四、二二九	無產	六六、八六八	計	五、三六四、二八五
計	四、八三、〇九七				

であるから與黨側が五十四萬千百八十八票勝ち越してゐる事となり、殘る中立の七十四萬五千八百五票と、其他の十八萬四千四百四十七票はどちらともハツキリしてゐないと見てよい。

けれども現に當選してゐる新代議士中にも選擧違反で起訴せられて居る人が相當多いから、其等の犯罪が確定したらそこに若干の動搖が起るのは當然の事であり、又この檢擧が語る如く、今度の肅正選擧がどこまで正しく行はれたかといふ事にも若干の疑問が起つて來る。

今度の戰ひでは政友會が慘敗した、殊に鈴木總裁を初め、小川顧問、小泉三申の諸元老から、田邊熊一、高見之通、鷲野米太郎、板野友造、廣瀨爲久、向井倭雄、原惣兵衛等々の古顏が惜敗の苦杯をなめさせられてゐる、加之、國體明徵問題で現內閣を痛擊した山本悌次郎氏の選擧事務長も違反に問はれて、或は山本氏にも及ぶのではないかと思はしめた。

斯うした慘敗を、政友會の不人氣からだと、さう簡單に片付けるわけにはゆかない、そこにはもつと錯綜せる原因がなくてはならない、其一因に私は戰術の巧拙をも考へたい。

といふのは、私の鄕里島根縣第二區の選擧の結果について、深く考へさせられたからである。

島根縣といへば、すぐ若槻王國といふであらう、が、それは第一區出雲の事である、第二區石見は往年自由黨の鬪士として、議會に於ては進行博士と呼ばれた恒松隆慶氏の鄕里である、從つて自由黨時代からの政友會の地盤であつて、島田俊雄氏と沖島鎌三氏とを出して居た。

勿論民政黨の俵孫一氏も此區の一角に、何人と雖も一指をだも染めさせないといふ金城湯池をも

つて居る、けれども區全體としては政友會の地盤であつて、政二民一の代議士を出してゐることは實に當然である、社大の龜井貫一郎氏もこの石州津和野の出身であるが所詮この區からは當選の見込がないと見切りをつけて區區から出てゐたのである。

私は公平なジヤーナリストの立場から、民政黨の俵孫一氏と、政友會の島田俊雄氏と、どちらも大臣級の偉材を出してゐる事を郷里の爲に誇つてゐた、さうして猶能ふべくんば社大の龜井貫一郎氏も、安んじて當選せしめ得るようにしたいものだと思つてゐた。

範疇の古い人たちは、私のかうした念願を今直ちには遂げさせてくれないだらうが、然てはさうした機運も惠まれるであらうと、淡い期待をかけてゐた。

政黨人でない私は、そこは極めてフリーな立場にあつて、眞實ジヤーナリストとしての良心にのみ從ひ、公平無私に考へる事のできる幸福を喜んで、いつも郷黨の爲に氣を吐いてゐた。

然るに今度の選擧に當つて、甚だ不愉快な事を聞いた、それは昭和會から恒松氏の後をつぐ人を立てゝ、島田氏か沖島氏を落さうといふ計劃があるといふ事であつた。

島田俊雄氏を落さうなどといふ事はあり得ざる事だ、併し沖島氏はあぶないかも知れない、それ

に選擧は水ものだ、若しそんな事になつたら島田氏も是非郷里へ歸らなくてはいけない、こんな事を考へて私は島田氏の秘書に聞かせて見たことがあつた。

ところがその後間もなく、恒松氏の後を立たせて島田沖島兩氏のいづれかを落さうなどとは、あまりに卑怯な事だといつて望月圭介氏が反對し、遂に沙汰止みになつたと聞いた。

さすがに望月氏だーと、私は心から感激し涙さへうかべて歎んだ。マアそれでいゝ、石州から島田代議士を失つてはならぬことは、俵代議士を失つてはならぬと同じ事だ。それは政友民政のいづれに屬する者でも、石州人の念願であらねばならぬと心の中に繰りかへした。

ところが、それから間もなく石見出身の東京在住辯護士升田憲元氏が、民政黨から推されて石州から立候補したと聞いた、けれども何程の事かあらん？と氣もとめないでゐた、沖島氏が落選しようと、升田氏が當選しようと、それは何も大局に係はりのある事ではないと、至極平靜に眺めてゐた、そこは民政黨にも政友會にも屬しない自由と氣樂とがある私だからである。

然るに其後の戰況を新聞紙で讀んで見ると、マルで問題にしてゐなかつた升田氏が中々優勢だといふではないか、更に驚いたことは島田氏の地盤にぐん〳〵喰ひ入つてゆくといふではないか私は

大に驚いて郷黨に呼びかけた、「島田俊雄を落してはならぬ！」と、更に島田氏が全政友會の重きに任じて、一身の當落を考へる暇もない事を縷々數千言書き送つて激勵した、それは決して政友會の爲にではない、若しも同じような事が俵孫一氏にあつたとしたら私は同樣によびかけたであらう程、それ程島田、俵兩氏を出してゐる事を誇りとして居る私だからである。

開票第二日、二月二十二日の午後帝都の街頭では呼賣の新聞が「島田俊雄氏危し」と書き出してゐるではないか、甚だしきに至つては午後三時頃「島田俊雄落選」とまで書出してゐたのを見た、郷友Kは「石州人の恥辱だ」と怒鳴つた、私は氣が氣でなく新聞社へ電話で問合はせた、さうする中に午後四時すぎのラヂオニュースでは島田氏の得票沖島氏を凌駕してゐると聞いてホッとした、ホッとして愁眉を開いたものゝ難解の謎は升田氏最高點を續けてゐる事であつた。

郷里を離れて東京に住む六十二歳の老辯護士升田憲元氏、而かも近年郷里とはさうした深い交渉もなかつたと聞いた升田氏が、卒然民政黨から立つて二旬ならずして一萬七千票を獲得した事は松旭齋天勝の奇術以上の奇術である、私は何とはなしに明朗選擧に一抹の暗雲がかゝつたように思へてならなかつた、私自身の朗らかな氣持をさへ暗うした悲しみに打たれた。

三、無産黨の進出は何を語る？

叛逆的に投じた？　インテリ層！

けれどもそれは一局部に於て、偶々起つた事實を批評人として私が取上げた一些事に過ぎない、又實際さうでありたいと願はれて止まぬ、現に私が實戰に參加して、言論戰の一翼を擔當した東京府第一區の如きは、取締も公平であり、曾てない肅正な選擧が行はれた。

定員五人のところへ立候補十七人、言論、文書の戰ひに互に鎬を削つて大童となり、戰ひとつた票數は社大黨の河野密氏が一萬四千三百八十七票を筆頭に、民政黨の新人渡邊鐵藏博士の一萬一千四百八十六票、三木武吉氏の後をうけついだ早大出の原玉重氏の九千二百三十九票之につぎ私の友人政友の立川太郎君七千七百三十七票で第四位、第五位は民政の橋本祐幸氏七千五百六十九票、次點の政友會前代議士本田義成氏二百四十七票の差で惜敗して居る。

この得票數から見ても、如何に血みどろの戰ひが戰はれたか想像できるであらう、殊に社大の河野氏が最高點で當選した得票數を、區分けにして檢討して見ると、工場地域の芝で四三九〇、居住

區牛込で四〇七八は固より異とするに當らねど、麻布でも二一六八、四谷で一四二五、麹町で一二六三、赤坂で一〇八三を獲得してゐた處を見ると、ひとり勞働者層のみでなく、インテリ階級に相當の支持者をもつ事は見のがしてはならない。

投票の買收が嚴に取締られ、與黨側に偏よつた掩護が昔日の如く行はれず、無產黨に對する彈壓が全く影を沒した餘慶をうけて、自由に戰ひ得た當然の收穫と見るべきであらうが、それにしても既成政黨に對する反感や、社大黨に對する共鳴のみではなく、いづれを見ても大して優劣もなく、政友民政のいづれに投じたからとて政黨政治の具現も前途遠しと見た人たちが、ふとした好奇心かち深い思慮もなく投票したらしい半面をも見なければならぬ。

私は××省の某給仕の口から、かういふ事を仄聞した。

「總選擧の結果もかうなつてはだめだ、國體明徵どころの話ぢやない、反戰同盟に加はつて戰爭を否定するやうな人が代議士に選出されるようでは、日本もゝう下り坂だ」

十五歳や十六歳の少年がいふ事ではない。之は確かに××省の中で已にさうした話が持上つて居るのだなと思はせられた時、好奇心に驅られて獵奇的に投票するなどは以ての外だと思つた。

評論家馬場恒吾氏は「讀賣」の月曜評論で、「明日を約束する」と題して、時代は流れつゝある舊式の政治を見送つて新らしき政治を迎へる時代が來た、今までの政治に於ては個人的の交渉、政黨の駈引きを上手に行つて、如何に政權を取るかといふことが政治の重要部分とされた、今度の選擧に現はれた人民の意思は最早さうしたことを問題にしない、誰が總理大臣にならうが、どの政黨が政權を取らうがそれは問題でなく、この人民の生活を安寧幸福にする政治を要求してゐるのだ、英雄崇拜的な氣分は失せて實質的に人民の爲めを思ふ人を當選せしめたのであると結語して居る。

其は確かに半面の眞實であつたであらう、併し選擧のすべてがさうした眞劍味で行はれたものではない、中には氣まぐれもあつた、無意識的の妄票もあつた、從來金何圓也で買收された一票が今度は一錢にもならない、どうせタヾなら無產黨に入れてやれといふのさへ確かにあつた。

況んや現在の生活に不滿を感じ、資本主義經濟機構の今のすがたに嫌たらず思うて居る國民の大部分が、平生の不平不滿を僅かに自己のもてる一票に托して、叛逆的の意圖から無產黨に投じたものが無いと誰が斷言し得るものぞ、思へば實に恐ろしい叛逆ではないか。

おもうて此に至れば、麻生久氏が社大黨の書記長として豪語して居るような、「今日社會大衆黨

のおかれてゐる立場に對して眞の理解を有するならば今回の飛躍的發展が、決して偶然にあらずして、深き社會的根據と必然性の存する事を知るであらう」といふことも必らずしも當然の結語とはいへまいと思ふ。

況んや今回の選擧戰に於て、無產黨も亦選擧第一主義をとつた事は既成政黨と何等擇ぶ處なく往く處として人氣に投じ大向ふをうならし得るやうな言論戰を展開し、甚だしきに至つては泣き落し戰術を弄してまで、唯々當選せん事を目標に戰ひ續けたのであつて。從來の如き主義主張の闡明などは第二次的に考へて居たやうに見えた處もあつた。これ等は正に選擧に勝たんとする焦燥から、既成政黨の型を模倣した唾棄すべき事實であつた。勝に乘じて議會內に於てまでも、更に既成政黨の足跡をふんでゆくようでは、無產黨獨自の譽名を自ら拋棄する結果になる。

此事については馬場恒吾も亦同じような警告を述べて居る、曰く

民衆の期待に叛かざる爲には、無產黨は決して既成政黨のブルジョア意識に感染してはならないブルジョア意識といふのは、自分が民衆の中から生れ出た事を忘れて特權階級になりたがることである。舊式政治家流の策動や謀略で政治を動かさんとする事である。キヤスチング・ヴオートを握つて漁夫の利を占めんとするどとである。さうしたさもしい心を起さず正に、々堂々として權力の壓迫に對して民衆を守るといふ態度を死守するならば無產黨が絕對多數になる日も遠くはあるまいそれと共に日本の政治も根底から明朗になる……と。

私は必らずしも無產黨が絕對多數になる事を待望しない、絕對多數黨になるといふと動もすれば共良心を歪曲される、少數黨でもいゝから議會を腐敗と汚毒から救ひ淨むる鹽としての立場になつて欲しい、淨めの鹽の使命は實に重大なものである。

今「東京日々」の報ずるところを讀むと、交涉團體にならうなどいふ考へを一拋して、先づ國民大衆に呼びかけるべく、三月早々から社會大衆黨の全國遊說が初まるといふではないか。此一事已に大に我が意を得たるものである、國民大衆の支援によつて進出した社大黨である、飽くまで國民大衆の掩護により、大衆の爲の利益を獲得しなければならぬ。

さあれ社大黨も國同、昭和の二派に劣らざる力と地位とをかち得たのである、安達氏の擧國一致提唱の中にもこの社大黨の存在を忘れてはならない。

四、頑冠りして現狀維持はてきない

昭和會閣僚の勇退に期待するか？

岡田內閣の與黨である、今次の總選擧で第一黨二〇五をかち得た民政黨は、動もすれば勝利に乘じて閣僚割當の不公平を云爲せんとするものあるを見越し、先手を打つて首腦部では「政局の不安嚴戒」の一本槍で、無事に〳〵とマルで腫れ物にさわるが如き氣持で、內閣改造論を抑へて居るようである。この抑へが果して特別議會終了の後までもつであらうか？。

野黨政友會は又、政戰に慘敗して鈴木總裁まで落選した悲痛の結果に鳴を靜め、總裁と同じ選擧區で當選した川口氏の辭任說も、さすがに總裁が快く次點せり上げを首肯はないので一頓挫の形となり、軈て具體化せんとして居る鈴木總裁の引退を契機に、黨內の統制を新たにして今後の態度方針等にも再檢討を加へ、來るべき特別議會にも純野黨の立場を死守し、國策本位で堂々政府の批政を糾彈し、捲土重來の勢ひで邁進すべく、今正に嵐の前の靜寂振である。

少數黨ながらも岡田首相に對しては、特に忠勤を勵んでゐる內田鐵相が、主としてリードして居

る昭和會は、今こそ二十人だがやがて特別議會に臨むまでは、中立その他から同志を糾合し兎も角も交涉團體にまで漕ぎつけた上、徹頭徹尾現狀維持で進む肚らしいが、望月遞相と山崎農相とが、果して內田鐵相と全然同一態度でゆくかどうか？。

國民同盟の安達總裁は已に卷頭で述べた通り、擧國一致……眞の擧國一致を具現すべきであると岡田首相を說き、鈴木政友會總裁をも訪ねて、いはゞ岡田內閣と政友會との橋渡し役を自分から買つて出た事から見ると、遲くも特別議會が終了したら內閣改造をさせねばならぬといふ肚らしく、この點昭和會とは友黨の如くであつて、又全然反對してゐるようにもおもへる。

民政黨の自重、政友會の靜觀、昭和會の現狀維持高唱、國民同盟の眞の擧國一致具現の進言等各派各樣の動きを見る時、結局は今後の政局の動きに對して、極めて重大なる關心をもつ爲ではあるが、總選擧の結果に對しては銘々に正直に眞面目に受取つて、其戰績を凝視して自已を再認識し、よつて以て將來の態度を決する前提にしようとしてゐるのは嬉しい。

けれども特に氣づかはしいのは昭和會の增員運動である、折角の肅正が動もすれば明朗性を失はんとするのではないかといふ私自身の心配である。

與黨としての聯合が絶對多數になり得ない苦しまぎれに、中立派議員を引き込むことはよいかも知れない。けれども野黨政友會から切崩しをやらうなどゝいふ考へを起したならば、それこそ明朗政治を自ら汚すものとなるのはいふまでもない。

然らば少數を得て居る如く得て居ないが如き陰鬱な現下の政情において、如何にして國民大衆の納得するような明朗政治が期待できるか、それは岡田首相の聲明そのまゝの具現である、聲明は已に聞き飽きてゐる、今は唯實現を待つのみである。

岡田首相は選擧終了後二月廿三日にも、談話の形式に於て其所信を聲明し、全國民に呼びかけてゐた一節に、「政府としては、その施政の根本の信念に就ては從來屢々表明した所と毫も變りはないのであつて、今回の總選擧に依つて表示せられた國民の意思を深く尊重し、この新なる政情の下に愈々奉公の志を堅くして、その最も重大なる使命たる帝國憲法の本義に副ふべき政治の確立に向つて邁進せんとするものである。而して私は今回の選擧において國民諸君が實證せられた精神の緊張を今後益々發展せしめその協力に依つて內閣く國民生活の各方面に亘つて大いに刷新向上を圖り外は現下の重要なる國際關係に善處し、國力の充實國威の伸張に勉めることが最も肝要であると思ふのである云々」と語つて居るではないか。

いふ所の、「今回の選擧によつて、表示せられた國民の意思を深く尊重し」とはどうする事か。選擧前と選擧後とは民政黨が第一黨となり、社大黨が著るしく激增して來た事だけでも、已に大に異つて來たではないか、それにも拘はらず政府の組織は依然舊態を其まゝ持續して、それで國民の意思を深く尊重して居るといへるであらうか。民政黨としても一言なかるべからずといふ所である。政局の變動をおそれて躊躇ものにさはるやうに、自重(?)の美名にかくれて因循姑息の態度で居ることは、決して選擧の結果に忠實なる所以ではない。

殊に首相が聲明して居る如く、「最も重大なる使命たる帝國憲法の本義に副ふべき政治の確立に向つて邁進せんとする」といふ事は、斷じて舊態依然、現狀持續を許すべきことでないと思ふ、岡田內閣の使命としては、非常時日本の國政の重きに當る事であつたが、その最も重大なる役割の一つに「選擧肅正」があつた事は今更贅言を要しない所であつて、政黨內閣に於ては到底實現し能はざる公平なる選擧を敢行し、よつてもつて眞に國民の意思を表現せしめんとする事であつたが、兎にも角にもその選擧は已に終了し、國民の意思は新たに表示せられたのであるから、此に一大使命

を果し得た岡田内閣としては、憲政常道復歸を衷心から念願するならば、一旦桂冠して然るべき絶好の機會を與へられて居たのだと私はおもふ。

さて後、次の政局を第一黨になつた民政黨が擔當するか、民政黨と雖も單獨ではその力が足りないから、豫て聲明しておいた通りに擧國一致……眞の擧國一致で其大任をつくす事にするか、擧國一致が必らずしも小黨各派の力をかるべきでない事は、昭和會や國民同盟に與へた國民の信任票によつて推測する事ができるから、いつその事政民聯絡のよりを戻して、二大政黨が政策を協定し、反對するものには反對せしめて全國民の批判に訴へ、國家の爲に政黨政治確立を求めて勇往邁進するか、其も現下の非常時局が許さないとするならば、官僚も軍部も國民の一勢力であるといふ見地から、所謂擧國一致內閣を新たに組織すべき膳立を立てるかのいづれかであらう。

けれどもこゝに一つの道がのこされて居る、それは昭和會系の望月遞相と山崎農相とが、選擧の結果を考慮して自發的に勇退する事である、そこへ政友會から新たに迎へ入れて一部改造を圓滿裡にやつてのけようといふ手である。がそれは政友會の立場として、現在の岡田內閣に入つて來る事もできねば、民政黨がいくらノントウ町田でも傍觀してゐる筈がない。

五、中立の得票九十三萬を見よ

眞の擧國一致は政治形體によらぬ

私は今望月遞相の問題に觸れて、憶ひ起すのは大正十三年の護憲運動の事である。私はその頃兵庫縣加古川にゐて、東播日々新聞の主筆をしてゐた、この新聞は橋洲東部に於ける政友派の支持を得て、地方自治政の刷新憲政擁護の使命を帶びて微力ながらも忠誠を捧げてゐた。

ところが、突如として起つた政友會の分裂から、兵庫縣に於ける政友會所屬の代議士は一齊に政友本黨に走つた。縣會議員も一人殘らず政友會を去つた其時東播日日新聞主筆としての私は、激甚なる衝擊を感じて私自身の去就に迷はねばならなかつた。

憲政擁護の爲に政友本黨を向ふにまはして一戰を交へるか、それには昨日までも今朝までも僚友として「東播日日」に糧をおくり、私の新聞社を支持してくれた人々を敵として攻擊しなければならない、それは私のとるべき當然の道であるとしても、事實は忽ち糧道を絶たれて城を枕に討死しなければならぬ、私自身は晏如として死に就くとしても、全社員の屍を誰が拾ふ?。兎つおいつ思

案にくれた私は東京に居る先輩の指揮を仰いだ、孤壘を死守して護憲の爲に勇往邁進せよ！　激勵の電報は全社員の血を湧き立たせた。その時の事である、望月氏西下の途中播州に立寄つて慰撫もし激勵もして、護憲の爲に萬丈の氣を吐いてくれた。

時の政友會總裁は今の大藏大臣高橋是清氏である、兵庫縣支部建直しの時、秘書の堀切善兵衛氏と小川平吉氏とを帶同して、神戸驛頭に着かれた時、迎へにいつた者は今度の選擧で再選の榮を擔つた立川平君等々の同志十數名に過ぎなかつた。世が世であるならばと無數の感慨に涙さへ出たがそれでも大會には入り切れない程の聽衆が殺到して、政友會支部の磐石も固まつた。

其高橋氏が岡田變態內閣の大黑柱となり、その望月氏が同じく此內閣の邏相となつてゐる、之を直ちに憲政の反逆者の如くいふ事は私には到底できない、私は今も猶この兩氏を憲政の爲に忠誠をさゝげてゐる國士であり先達であるとおもへてならぬ。

そこに非常時國情といふものを再認識しなければならぬ、スローモーションに始まり、スローモーションに終つた齋藤內閣、續いてその後を繼いだ岡田內閣も、何の變り映えもない弱體內閣で而かも柳に風折れなしの俚言をそのまゝ現實にしての存續振り、殊に今次の總選擧に於ても、兎にも角にも內田鐵相をして「國民は我內閣を支持して居るのだ」と豪語せしめるだけの結果を招來した事については、唯政友會が不人氣だからとか、內部統制が亂れてゐた爲とか、そんな簡單な理由で片付けるわけにはゆくまい。

岡田內閣の聲明を待つまでもなく、民政黨や昭和會のスローガンに動かされたのでもなく、國民は已に眼ざめて居る、その一般的動向が擧國一致でなければならぬといふ事は、野黨政友會でさへも擬裝擧國一致排擊と銘打つて、眞の擧國一致でゆかうと呼びかけてゐた一事によつても、極めて明白な事ではないか、それは世界に於ける日本の實力を知り、東洋に於ける餘りにも重大なる日本帝國の立場を知つて居る限り。敢て軍部といはず、官僚といはず、政民兩大政黨は勿論の事、國同も昭和も無產黨までも、いづれも皆この國民の自覺の上にドッシリと腰をすえて、一致結束國政の重きに任じてゆかねばならぬのであり、それが國民の待望でもあるからである。

大正十三年の護憲運動に、挺身奮鬪せられた高橋是清氏にしても、望月圭介氏にしても、この國民一般の待望をよくかみわけての去就進退でなくて何であらう？

今後の政局を擔當し得るものは、眞にこの國民の輿望を充たし得るものでなくてはならない。民

政黨たとひ第一黨の潮に乘じて、今後の政治をリードし得るに至るとしても、斷じて××財閥の手先になるような舊態を持續するのではだめである。

そこはさすがに軍部は眞劍であつた、少くとも軍部の努力によつて世界に於ける日本の地歩は高められ、確乎不拔のものにされた。華府會議以後、更にロンドン條約以來、如何に日本の位置を高め、東洋に於ける日本獨自の立場を明確になし得たかをおもふ時、私心を介まずして國家の重きに任ずるといふ事程、强い力は軍部以外に見難い事であつた。

さればといつて、軍部がいつまでも、又どこにいつても日本の政治をリードすべきではない、それは非常時日本に於ける爲政者覺醒の一道程であるだけでいゝ、已に爲政者も眼ざめた、國民も相當に自覺した、政黨も深き自省によつて甦生一路眞劍に立ち直つて居る、最早政治はその本道に立ちかへる事によつて、より强くより朗らかな政治が期待できると私はおもふ。

之を今度の總選擧の結果から見ても、政黨に屬しない中立候補に投じものが、七十四萬五千八百五票になつてゐるではないか、更に右翼其他に投ぜられた十八萬四千四百四十七票を合算すれは、其總數九十三萬票を超えて、昭和國同兩黨の得票九十五萬票に近似し、驚異的躍進と讃嘆せられてゐる無產黨の六十二萬票よりは正に五割も勝ち越してゐるではないか。

政友、民政二大政黨の得票がいづれも四百萬票を突破してゐる事は、多年の惰力によるものもあり、政戰になれたる戰術上の收獲も相當大きなものがあらうが、この中立其他の九十三萬票こそは國民が既成政黨にのみ信頼をかけるわけにゆかない、どうしても今は擧國一致で國政の重きに任じてもらはなければならぬといふ意思の表現でなくて何であらう?。

而かもその數は、天下の耳目を聳動した無產黨の躍進的得票より更に〳〵五十パアセントを超過してゐる數字である。

立憲君主政體の日本としては、健全にして眞摯なる政黨政治がもつと眞劍に要望されさうなものであるのに、かうした國民の意思が表現されてゐるところを見ると、政黨の單獨政治では不安のようである。二大政黨の聯繫でもまだ〳〵安心して委ねられないようにも見える。

此に於てか、官僚も國民だ軍部も國民だ、……最も眞劍な國民だ、政民兩黨は勿論國同昭和も無產黨も國民であるから、眞の擧國一致は軍部といはず官僚といはず、政黨の甲乙を差別する事なく眞實全國民の輿望に沿うた政治をなすものに委ねられるのだといふ事になる。

六、擧國一致內閣の首班は誰？

宇垣か、近衛か、仰々誰か？？

岡田內閣が政友會を與みせしめ得なかつた事は、擧國一致を提唱しながらも猶官僚色を多分に濃厚ならしめてゐたからである。軍部色は齋藤內閣の時よりも淡くなつた、それは軍部自らの一歩退却によつてであつて、岡田內閣の努力でも何でもない。

軍部はもと〳〵一國の政治をリードするといふ意圖も計畫もあつたのではない。偶々非常時日本の國情が軍部をして傍觀せしむるには餘りに重大であつた爲に、遂に一般民衆をも一國の政治をもリードするやうな立場に引入れられてしまつた、けれども國民は大に眼さめて來た。政黨も自省を深めて段々と立ち直つて來た。それが軍部を一歩退却せしめたのである。

この退却を契機として、國民大衆を代表するところの政黨の力をもつと〳〵取入れることに忠實であつたならば、政友會も必らずその勸說に從つて入閣もしたであらうし、國策審議會をもつと充實せしめ得たであらうに、惜むらくは官僚色を濃厚にして政黨を顧る事が淡かつた。

これは政友會のみでなく、民政黨と雖も恐らく同じ憾みを抱いてゐたと私はおもふ、唯第二黨といふ立場から、如何にかして黨勢を挽回しようといふ一事に焦慮し、暫らく眼を閉ぢて來るべき春を待つたとしか考へられない、其期待は漸やく酬ひられて今次の選擧に於て民政黨の春は來た、隱忍自重がいつまで續くか、民政黨と雖もいつまでも官僚の傘下に納まつてはゐまい。

新聞紙が切つに「晴後曇」と政界の風雲を豫報してゐるのも此意味であらう。私はもつと深刻に「曇後嵐」といひたい、此曇天は辛うじて四月二十日まではもつであらうが、二十日からは風雨が來る、五月の中旬になつたら颱風にかはる、岡田內閣は事前に用意すべきであらう。

そこには後藤內相といふ聰明な新人が居る、此新人の背後には伊澤多喜男といふ後見がついて居る、減多にドヂをふんだり、將來のある後藤をつまづかせるような事はすまい。固々今度の選擧肅正で一ト役無事につとめた彼である、いつまでも其椅子にかぢりついて居ようなどとは考へても居まい、潮時が來たらサツサと見切りをつけるだけの勇敢さが彼にはある筈だ。

さて愈々特別議會も無事に終了して、一應の使命は果せたといつて岡田內閣が退却するとなつたら、後繼內閣は誰に來るだらうか、憲政常道復歸で第一黨民政の町田へゆくか？。

そこが擧國一致は政治形體によらないと、前項に於て述べた私の見方である、如何にも民政黨は第一黨になつた、四百四十一萬七百四十二人の國民から投票された、併しそれは民政黨に政局を擔當させなくてはならぬといふ熱意のこもつた投票であつたか??。

ドウセ擧國一致だ、政黨單獨內閣は當分の間は來さうにもない、さすれば政友が勝たうが民政が第一黨にならうが大した事ではないぢやないか?、これが今度の選擧に對する政黨に緣故ある選擧人の多くの者までがもつてゐた氣持である、其氣持が政友四百十九萬四千二百二十五と表はれ、民政四百五十一萬七百四十二と出たのである。

して見ると第一黨になつたからとて、民政黨が將來の政治をリードしなければならぬといふ國民の意思とは受取れない。勿論來るべき內閣は岡田內閣のような柳に風折れなしでは賴りにならぬ。一にも實力、二にも實力、眞に力のある熱のこもつた强力內閣でなければならぬ。それは議會に多數の支持者を有つといふ事も一要素には違ひない、けれども實力のある熱意のこもつた人材でなければならぬ。多數が必ずしも實力でないといふ事は五・一五事件の後、三〇三名の絕對的大多數を有してゐた政友會の頭上を、政權は素通りして飛び去つた事が明らかに證明する。

政界の消息通は一時宇垣內閣說を頻りに放送してゐた、宇垣と財閥、宇垣と元老、宇垣と重臣等々の事を說いて、今にも宇垣內閣が實現するかのようにおもはせた、ところが財閥との關係や元老重臣との因緣を云爲するだけそれだけ彼の影は薄くなつてゆくと見なければならぬ。

加之、あまりに棚ざらしになつたのでは見榮えがしない、私にはどうも宇垣內閣說は考へられない。さらば岡田の出直しか、それも政友會とのこだはりがどうかと考へられるから實現性は淡いぢやなからうか。或は岡田內閣改造の意味で高橋內閣說を語る者もある。それには高橋氏の財政政策が一般の支持を受けて居るからともいふ、一應は尤もらしく聞こえるがどうも新し味がない、もつと新らしい味が加はらないと明朗に見えぬぢやないか。

そこで新人近衞公の噂さが出る、公は後藤內相とも一脈の通ずるものがある、官僚系には違ひないが新官僚中の新人である、公こそは非難もない紳士であり、公平に身構へる事のできる人でもある。そこに多分の實現可能性が親へる、後藤としても肅正選擧で功績をあげて、出所進退を誤まらないところに男振りをあげ、將來を約束さるべき力をつかんで、而かも一脈相通ずる公の如きに次の政局を擔當せしめ得たら、此にまさる欣快はあるまい。

が、それは西園寺老公の首肯かるゝところであらうか？　私心をすてゝ君國の爲に御奉公仕るといふ忠誠の眞心からいふならば、組閣の條件次第では必らずしも否みはされまい。

ところでその內容はどうなるであらう？　陸海兩相は別として、司法の如きはどうしても政黨人には任せられまいといふのが常識であらう、さすれば擧國一致內閣の建て前からして、民三政二昭一國一社一といふ風に割振るか、それも結局複雜にするだけで事實問題としては徒らに紛爭の種をのこすことになるのではないか？。

無任所大臣は實現しないでも、國策審議會といふものがある、社大や國同や昭和はそんな所で我慢してもらへばいゝぢやないか、矢張り政民二大政黨を兩翼にして、その間に新官僚をも織りまぜて松の並樹に櫻花のチラホラ見ゆるのも又趣きのあるものだ位でやつてゆくのが、一番無難でもあり又眞の擧國一致になるのであらうとも思へば思へぬこともなからう。

けれども、岡田內閣に對して敵對行動で終始した政友會が、かうした政情に於て果して參加するであらうか？岡田に大命再降下の場合といへども、一應出直して來た以上は擧國一致の建前から之を拒否する理由は淡い、況んや近衛內閣でもできようなら其は一も二もない事と思ふ。

七、强力內閣は多數を意味せず

社會指導權は中心問題に從ひ動く

こゝまで稿を進めた時、今日の夕刊では廿五日の閣議前後の情況を報道し、政黨出身閣僚の顏合はせで、內田鐵相は昭和會を三十人に增し得るといひ、町田商相亦民政黨は猶五六人を中立其他から奪ひ得べしといひ、純與黨昭和會と準與黨民政黨とが提携すれば、優に議會の過半數を有するから、國同の向背如何に拘はらず完全に議會を乘切つてゆける、從つて岡田內閣は現狀のまゝで改造の必要などは毛頭ないと、頗る景氣のいゝ談合であつたと報じて居る。

私は其報道の眞實なるや否やを知らない、又强いてその記事の眞相を究めようともしない、それよりも先づ軍部の提唱してゐる强力內閣、國策遂行の爲に要求する强力內閣が果してそんなものであらうかを今一度考へて見たいとおもふ。

政友會を切崩して昭和會の頭數を增す、中立から引ツと拔いて民政黨を二百十にする、それが政策遂行の爲であるにしても、曾て軍部が國政を、國民をリードした頃のやうに、一片の私心もない

公明正大の行動といへるであらうか？、強いといふ事は數の上で多いといふ事ではない、毫末の私心をも包藏しない、高風霽月の心事を以て、明確なる判斷と、炎ゆるが如き献身の至誠をさゝげて、國家國民の爲に奉公する處に強さがあるのである。

安達國同總裁の提言を一擲し、擧國一致を高唱した全日本國民への公約を裏切り、衆議院に於ける議席の半ば以上を辛うじて占め得るといふ事にのみ倚りて、政局安定、天下泰平を謳歌するが如きは、何としても危險千萬の藝當であつて、我儕はそこに強力内閣の姿を見出し得ない。

加之、斯くの如きは切角肅正された選擧の事後を汚し、明朗ならざるべからざる政治を陰欝にし政界をして再び暗雲に閉さしむる結果となるではないか。

併し、政黨の動搖は必らずしも昭和會の内田鐵相や、民政黨の町田商相の働らきかけによつてのみ起るとはいはない、政友會は今次の選擧戰に慘敗し、剩つさへ鈴木總裁が落選した爲に、早くも黨内に動搖の兆候が見えて居る、さうした情勢から自然に來る離散や脱黨なら、之も時の勢ひで是非もない事ではあるが、その兆候あるに乘じて手をのばすなどは苟くも武士のなすべき事でない、素町人でも卑しむ態度である、此意味に於て内田鐵相の如きは猶更自重しなければならない。

民政黨と雖も町田總裁がノントウ式に樂觀してゐる程、左樣に無事安泰とは斷ぜられまい、總裁を取卷くところの賴母木、櫻内、大麻、川崎の主流どころに果してシツクリした意見の一致があるだらうか、況んや是等の幹部以外にも、政治資金調達の役割を分擔する若槻前總裁を初め、永井、富田、櫻井、俵等々の諸星が、今日まで指導的勢力を獨占して政黨の勢力を蔑視してゐた軍部や官僚に對して、默つて從つてゆく氣でゐるだらうか？。

不遇におちてゐたこれまでこそ、ジツト我慢してその指導的勢力の動きを待つてゐたであらうがそれは決して其勢力に對する好意の隨從ではなかつたのである。唯々社會狀勢の動きに從ひつゝ政黨として自分の立場を守りながら、徐ろにその指導權の移動を待つてゐたのである。

ところが今度の選擧で第一黨になる事が出來た、隱忍自重今日に及んで漸やくにして我が世の春を謳ぐことができるようになつた、それだのに猶官僚や軍部の力におされ〳〵てゆかねはならぬであらうか、そこに積年の不平不滿が鬱積して來るのは寧ろ自然である。

「我儕の敵は政友會ではなく官僚なのだ！」かういつた考へをもつてゐる者は一二の首腦部にとゞまつては居まい、「憲政の敵を斃せ」「政友會と聯携してでも其等の敵と戰へ」、等々の意氣に炎え

で居るものが今も猶幹部の中に潜在して居ることを見のがしてはならない。

況んや昭和會の内田鐵相に引きずられて、彼は三十人になるとしても三閣僚を與へられ、我は二百十人の第一黨を以てして二閣僚の現狀に甘んじなければならぬ理由がどこにあるか？等々の新らしき不平は唯單に獵官の野心からのみでなく叫ばれて居る。

にも拘はらず、町田ノントウ大臣が内田鐵相の提言を首肯し、内閣改造は不可能だ、飽くまで現狀維持でゆかう然りそれもよからうといふところに何か胸に一物なくては叶はない。

安達國同總裁にしたところで、理義を正して擧國一致内閣具現の進言をしたのに飽くまで現狀維持でゆくのだといはれて、切角の提言を一擲されたのでは引込みがつくまい。

特別議會まではまづ無事でゆくとしても、結局はこのまゝで納まるべきでない諸情勢は、天下萬人の認むる處であり、國民大衆の待望も亦そこにかけられてある事は間違ひない。

勿論、社會の指導權が如何に動くかは、我が國の中心問題がどこにあるかによつて決まる、それは丁度滿洲問題が日本の中心問題であつた時その指導權が軍部にいつたようなものである。今後國家の中心問題は何であらうか？ 對外問題としては支那問題もあらう露西亞問題もあらう。

だが併し、斷じて忽がせにしてはならない中心問題は、何といつても國民の生活問題である、貧乏をどうするかの問題である。これほど切迫した、これ程眞劍な問題はない。

此に於てか今度の選擧で無產黨が飛躍的の得票をかち得た、不幸にして落選した人たちでも、堂々と戰つて大既次點になつて惜敗して居る。

安部社大黨首の政見を讀んで見ると、餓鬼道への轉落を主題として、貧乏は畢竟現在の社會が强い者勝ちといふ競爭社會であることに根本原因があると論じて居る、自分の生活は自分以外に誰も保障してくれない個人本位の經濟組織がすべての人に不安を與へると說いて居る。

現在の經濟組織が正しくない、それ故にこそ富める者は益々富み、貧しき人々は愈々貧しく、人は物をめぐつて相爭ひ、物を無上に大切にして、人が人を粗末にする不合理が行はれる社會は間違つて居ると結んでゐる。

この聲明によつて二百幾千人の人の心をキャッチし、東京府第二區で政友、民政の地盤を踏み越え最高點で當選した此一事によつても貧乏問題が中心問題になつてるといへよう、從つて今後の指導權のゆく手は國民大衆の生活について考へて與れる政黨にゆくべきであらう。

八、來るべき新内閣への要望

社會立法の制定實施を急げ！

だから近衛内閣が出來るにしても、岡田内閣が再生するにしても、或は又高橋内閣が出現するとしても、來るべき内閣は飽くまで全國民の輿望にそふ政治をなす事によつてのみ、その立場を安全に守り得るのだといふ事を忘れてはならない。政黨も亦眞に國民の輿論を議會に反映すべき重大任務のある事を忽かせにしてはならない。

そこに政黨更生の道があり、そこに政府が磐石の固きに安定して國策を遂行してゆける土臺がある。而かも議會は國民の輿論が叫ばれるところである、其叫びに、其聲に、耳を聳てゝよく聽從する事こそ爲政者の重大なる責務である、國民の聲に耳を閉ぢてはならない、國民の叫びを抑壓してはならない。話せばわかるとは大政友會の總裁犬養毅氏の最後の一語であつた。眞に話せばわかるのである。話させなくてはいけない、問答無用の暴政は時代錯誤である。

選擧肅正は一時的のお祭り騷ぎではなかつた筈である、肅正は選擧のみではない、政治も肅正されなくてはならない、明朗でなければならない。そこに憲政常道復歸の期待はかけられて居る。憲政常道復歸の念願は唯その名のみではない。名目のみの憲政常道復歸で再び舊態依然たる政黨政治の再現……財閥の手先になつて躍る政黨政治の復歸を誰が歡び迎へよう??。

こゝ暫らくは擧國一致でゆくより外はない、政黨單獨内閣は未だ早いといふ民心の動きには、猶若干の不安がのこされてゐるからである、そこにまた政黨の猛省が期待されて居る。

我儕が擧國一致内閣を提唱し、近衛内閣大に可也といふ所以のものもその一事に係る。

さらば我儕も亦我儕の要求を語つて結語としよう、話せばわかる筈である。岡田内閣の内務當局に於て立案せられた社會立法が二つある、その一つは退職手當積立法案で、今一つは國民健康保險法案である、共に私たちが昨年から期待をかけてゐる民衆の生活に最も深い關係のある法案だけにその實現が待望されて居る、この中、退職手當積立金法案は今日の新聞記事で見ると、内務省社會局では四月の臨時議會に提案させるといつて息卷いてゐると聞いて心から歡こんだ。吏僚でもさすがに社會局の仕事に携はつて居る人たちはかうした、熱意があるから嬉しい。

國民健康保險法案にしても、豫算の關係で大藏當局に難色があると聞いたが、せめて法律案だけ

でも成立させておきたいといふ社會局の熱意があると仄聞して私は心から感謝した。

安部磯雄氏の聲明を再言するようだが、もう一度トルストイの臨終の一語を繰返して見たい。

「何故、お前たちは私の事ばかり案じるのだ？、この世の中には苦しんで居る何百萬何千萬の人たちがゐるではないか……」

嗚呼この一語である、政黨人にも、爲政者にもこの尊い言葉が體得できるようになつたら、それこそ政治は民衆の爲の政治になる、より正しく、より朗らかに、國民大衆はその善政を謳歌し國を擧げて政道の難有さ忝けなさに感激するであらう、私は切にさうした日の到來を待望する。

內務省社會局の指導で、昨年暮に埼玉縣の越ケ谷町には、國民健康保險組合類似の越ケ谷町順正會といふものができた、十二月に發會式をあげたばかりでまだ搖籃時代にあるのではあるが、その內容を見ると豫算の收入の部に「共濟の補助」として八百圓が組まれてある、將來國民健康保險制度が實施せらるゝようになつたら、これは國庫の補助になるのであるが、今は三菱財閥などの寄附金をあてにかうした豫算を立て、法律制定の事前にも、こんな會を設けしめて臨機の處置を講じて居るといふのである、吏僚の熱意と親切に今の政治家は感謝すべしである。

九、眞に擧國一致熱求の時

今後の政局をリードする力は何か

私は二月二十五日此パンフレットの稿を了へ、二十六日の午後から校正にかゝつた。其日、其朝無氣味な空氣は帝都東京を中心に我濟の頭上を蔽うた、ラヂオは午後〇時四十分のニュースで取引所の休止を報じた。日本銀行も無事營業して居ると傳へた、巷の彼方此方からは曉早く警視廳巡査の全員非常召集のあつた事、丸の內電話がすべて通話できない事、半藏門外を固めて居るものが若干の兵士であつた事等々が、それからそれへと傳へられて市民は極度の不安におちた。

と、午後七時のニュースで、警備司令部の公報が傳へられた、帝都は午後三時から戰時狀態の警備が下令されたといふのである。而かも猶それが何の故であるかは報ぜられない。

午後九時四十分のニュースで、この朝五時第一師團に屬する一部青年將校が蹶起して、首相官邸を襲うて即死せしめ、齋藤內府、鈴木侍從長、渡邊敎育總監、高橋藏相、牧野前內府の旅館湯ケ原のいとう屋等々をも襲擊し、齋藤渡邊兩氏は即死、鈴木氏は重傷、牧野伯は危く免かれ、高橋氏亦

負傷せらると内務省の公報發表され、東京朝日新聞社亦襲はれたりと聞く。

私は呆然として聞き、暗然として泣き、嗚呼又何をかいはんやの感に打たれた。此稿をもう一度讀んで見ると、「軍部の一歩退却」と書いて居た、「軍部のリードに私心なし」と絶讃してゐた。けれども假令青年將校の一部にしてもかうした事態を、ひき起すとは何事ぞ?、それが假令國家と國民を思ふの切々なる熱誠に基いたといつても、私は悲痛慟哭の涙に咽ばざるを得ない。

若き人々の血を湧き立たせた原因は何であらうか?それを今更詮穿して何になる?、事は已にかうまで突き進んだのである。今は唯眞に擧國一致、內外多事多難の非常時日本の爲にその忠誠をさゝげ。上御一人の聖慮を安んじ奉り、九千萬國民の安堵を祈らねばならぬ。

政黨と政黨とが議席の多寡をいふ時ではない、總選擧の結果を打算して第一黨第二黨を論議する時ではない、擧國一致も擬裝的ではいけない。眞に國を思ふ忠誠の結晶であらねばならぬ。

果然、內閣總理大臣臨時代理を仰付けられた後藤內相は、その夜各閣僚の辭表を取りまとめ、闕下に伏奏して骸骨を乞ひ奉つたと傳へらる、嗚呼、事此に至つて大命を拜し、難局に當るものは誰ぞ?、忠誠率公の熱意に炎え、聰明事理を誤まらず、挺身殉國の勇者でなければならぬ。

それは我倚の屢々述べた如く、軍部といはず官僚といはず、勿論政黨のいづれたるを論ぜず擧國一致の力によつてこそ、始めて難局打開の望みは立つ、私心を介む事は斷じて許されぬ。

此際此時、私は今から四十三年の昔、明治二十六年の議會と政情とを憶ひ起して見たい。

私は其時年齢十七歳、鄕里石州津和野に在つて鹿足郡役所の雇を勤めて居た、帝國議會開設せられて四年、時の政府は伊藤內閣であり、衆議院議長は星亨氏で尾崎、河野、犬養等々の諸氏が政黨政治の爲に大に氣を吐いてゐた時代であつた。

伊藤首相は議會開會前に馬車から落ちて負傷し、井上內相代つて首相の職務を代行し、施政方針の朗讀演說も內相によつて代讀せらるゝや、野黨は一齊に蹶起して國務を忠實に審議する所以のものでないと痛罵絶叫し、遂には政府提出の豫算に對して大斧鉞を加へ、製艦費を初め豫算を減茶々々にたゝきこわし、七十九名對百五十二名の大多數を以て、八千三百七十五萬九千餘圓の歳出に於て八百七十一萬八千餘圓の大削減を決議し、河野磐州が閥族政治の横暴を痛擊し、愈々最後の手段として之を天聽に訴へ、陛下の聖斷を仰ぐべしとの意見一致し、內閣彈劾上奏案も壓倒的大多數を

一〇、今にして思ふ明治大帝の御時

一君萬民主義の皇道政治を仰ぐ

私は今、突如として起つた二月廿六日の帝都に於ける一部青年將校の蹶起についても、甚大の衝撃を受くるには受けたが、是等の事については已に昨日までの此パンフレットの原稿に於て述べ盡してゐるやうにおもふ、敢て稿を更めて語るべき何ものをも有たない。

唯、明治二十六年の混亂議會を追憶する時、今更の如く、明治大帝の御高德を景仰せしめらるゝのである。即ち昭和七年七月發行した我倅の現代パンフレット「明治大帝を偲び奉る」の舊誌から次の一節を原文のまゝ轉載再錄して、私の信念が十年一日の如く濫らざる事を訴へたい。

議長星亨氏が參内して閣下に之を奉呈した時、畏くも明治大帝は只「朕よく熟覽しおく」と宣はせたまうたのみで、御嘉納の御言葉もなく、政府は辭職せんとしても御裁可相成らず、議會を解散せんとしても御聽許なく、さすがの伊藤伯文博も進退谷まり、帝國議會も亦萬策盡きて手の施しようもなく、互に片唾をのんで成行如何と、息づまるような不安の空氣が政界の全面を蔽うてゐた時突如として大詔煥發、英明なる明治大帝の聖斷によつて政界の行詰まりは忽ち打開された。その時の勅語はかうであつた。

憲法第六十七條ニ掲ケタル費目ハ既ニ正文ノ保障スル處ニ屬シ今ニ於テ紛議ノ因タルベカラズ、但シ朕ハ特ニ閣臣ニ命ジ、行政各般ノ整理ハ其ノ必要ニ從ヒ、徐々ニ審議熟計シテ違算ナキヲ期シ、朕カ裁定ヲ仰カシム。

國家軍防ノ事ニ至リテハ苟クモ一日ヲ緩クスル時ハ或ハ百年ノ悔ヲ遺サム、朕茲ニ内廷ノ費ヲ略キ、六年ノ間每歲三十萬圓ヲ下附シ、又文武ノ官僚ニ命ジ特別ノ情狀アル者ヲ除クノ外、同年月間其ノ俸給ノ十分ノ一ヲ容レ、以テ製艦費ノ補足ニ充テシム。朕ハ閣臣ト議會トニ依リ立憲ノ機關トシ、各々其ノ權域ヲ愼ミ和協ノ道ニ由リ、以テ朕カ大事ヲ輔翼シ有終ノ美ヲ成サムコトヲ望ム。

斯の大詔煥發によつて、さしもに紛糾混亂してゐた局面も忽ちにして終熄し、政府も議會も共に恐懼措くところを知らなかつた。

月俸金參圓五十錢を受けてゐた鹿足郡役所雇の私は、献納には及ばぬといふ御沙汰であつたが、

聖恩の辱けなさに感激し、進んで微志を奉献した體驗をもつて居る。

果然其翌明治二十七年には日清戰爭あり、我が帝國の海軍は國の邊防を守るにさへ艦の足らざるを感じ、大阪商船日本郵船を買收して假裝巡洋艦とし、邊海防衛に當らしめたではないか。

當時已に私は明治大帝の御先見の明に感激し、政黨や議會の見識乏しきに驚いて居た、此に於てか思ふ。現時議會政治を呪詛し、政黨の存在を否定せんとするが如き一派が、徒らにファッシズムの實現に憧憬するものありと思へば、又一面にはファッショ紛碎は資本主義打倒の一方法也と叫ぶあり、右傾にあらずんば左傾、左傾も亦詐欺的プロパカンダに依るものとして極左派から指揮せられて居るが、いづれも炳たる皇道の忝けなさを歡ばふとはしない。此意味に於て私は一君萬民主義の政治に憧憬をもつ一人である。現時の世相を眺むるにつけても、私はいつも至聖至仁におはしました英明古今東西に卓絶し玉ひし明治大帝を景仰し奉るのである。（昭和七、七、三〇出版ノ一節）

（本篇三八頁にては二月廿五日、三九頁からは廿六日異變の後に成つたるもの附記して讀者に告ぐ）

聖恩無窮

○明治二十六年、時の衆議院と政府との正面衝突があつた時、製艦費問題について長くも　聖慮をなやまし玉ひ、宮廷の御費用をお省き遊ばされて年々金三十萬圓御下附の詔勅を拜し奉つた事は、そしてさしもに紛糾せる政局も、忽ち平定したことは感激の筆を以て、已に今から六年前發行した私のパンフレットに謹載し今又本誌の結語としたが、聖恩無窮の辭有きは今も昔もかはらない。

紀元節の御下賜

○去る二月十一日の紀元節に、恒例の全國社會事業團體七百七十三團體に御下賜になつた拾九萬七千三百圓は、ツイ此間の事であつたが、賚賜歲末御下賜になつたのも、内務省管下の拾壹萬壹千六百圓を初め、司法の壹萬七百圓、文部の六千五百圓、拓務の六千圓等々其高拾三萬四千八百圓といふ御下賜があつたと承はる

歲末御下賜のみてない

○猶此外にも一ヶ年定額三萬八千二百五拾圓、臨時二十六萬八千五百圓窮乏農村に對する御手當の拾七萬五萬圓、同じく臨時に長野縣地方の窮乏農村に下されたる四萬圓等々を合算する時は、如何に國民大衆の疾苦を見そなはしめ玉うて、宮廷の御費用の中から惠ませたまふかを仄聞し拜聽する度毎に私はいつも感激の涙に咽ばざるを得ない、寒夜に御衣を脱したまうた故事に、今更の如く史乘の上で、今の事實で感泣する。

三菱財閥の五十萬圓

○國民健康保險法案の制定について大藏省當局は、案の趣旨には同意するが何分莫大の國費を要するのだから、直ちに實現はむづかしいといつてゐる、けれども、國民の生活に、生命にまでも關係する重要法案であるから、一日も閑却する事はできないといふので、内務省社會局では三菱財閥に話して應急の措置を講じ、三菱でも其意を諒とし、五十萬圓を社會局に預托して適當に使つてくれと申し出でた、これが、一村に一人の醫者もゐないといふ僻陬の寒村に醫師を送る資金になつたり、越ヶ谷順正會のような、國民健康保險類似組合の創立資金になつたり毎年の定額補助金に運用されて、國庫補助が支給できるまで奉仕して居る。

岸田菊伴著　東京市澁谷區幡ヶ谷原町八八八　振替口座　東京六六九五一番　新東京社

病難貧苦を救ふ

國民健康保險法案

四六版　八〇頁
一冊定價二十錢
送料金二錢
郵券代用一割增

主要目次

○棄て鉢と聽くか斯の一語…寶笑婦の悲痛なる告白　○社會保險の全般的考察…果して溫情主義を壞すか　○階級鬪爭を誘發するな…字句の用ひ方に就ての論議　○普通組合と特別組合…貧弱なる村にはどうする？　○傷病手當金給付の問題…被保險者の種類に依て不公平　○共濟組合實施の効果…國鐵と私鐵の實蹟から一瞥　○現行法の被保險者と國民病…その最も多き花柳病の蔓延情勢……等々

昭和十一年三月三日印刷
昭和十一年三月八日發行
定價　特輯版　三十錢　普及版　二十錢

著作兼發行人　岸田三治
東京市四谷區箪笥町一二
印刷人　吉野實　電話四谷二五三一番
東京市澁谷區幡ヶ谷原町八八八
發行所　新東京社　電話四谷二八四七番　振替口座東京六六九五一番

發賣所
東京神田　栗田書店
大阪堂島　新正堂書店
名古屋市　川瀨書店
其他全國各新聞スタンド、各書店

UNIVERSITY OF CALIFORNIA
BERKELEY